

河野継代（2013 年度日本英語学会賞（著書）受賞）

このたびは拙著『英語の関係節』（開拓社叢書 21、開拓社）に対し日本英語学会賞（著書）をいただき大変光栄に思っております。これまでお世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

英語の関係節については伝統文法の時代から今日の生成文法に至るまで様々な角度から研究がなされておりこれまでに解明された知見は数知れませんが、しかしその反面まだ解明されていない問題も数多く残されており、とりわけ関係節の統語構造と意味に関してはいまだ定説がないというのが現状です。拙著ではこのあまり分かっていない関係節の統語構造と意味という極めて基本的な問題について考察し自分なりの考え方を示しておきました。

制限的關係節の先行詞がいつでも同じであると信じて疑わない人は多いはずですが、そんな常識が通用しないことを実例を挙げて示しました。関係節についてこれまで誰も指摘することのなかった幾多の現象を指摘したうえで、それら多様な言語事実をすべて説明できるような統一した分析を示してあります。

拙著では制限（的關係）節を中心に考察しましたが非制限（的關係）節についても随所に言及があります。例えば、「制限節」対「非制限節」という従来二分法による関係節の分類は誤りであり、制限節と非制限節の間に「非制限的な制限節」が介在しており、これら 3 種類の関係節が連続して段階的に繋がっていること、等々、です。また、英語の関係節には「範囲指定の関係節」とも呼ぶべき新種の関係節が存在することも実例を挙げて示してあります。さらに、英語の多重関係節には組み合わせの異なる 4 種類のタイプがあり、しかも、それぞれのタイプにおける関係節の生起順序はおおむね定まっていることを幾多の実例を挙げて示しておきました。

英語の関係節では常識では考えられない不思議な現象が幾つも生じています。例えば、部分表現や遊離数量詞は定名詞句とは共起するが不定名詞句とは共起しないと言われていますが、制限節では全く逆の事態が生じており先行詞が不定名詞句の場合にしか通常共起しないとか、あるいは、非制限節は S を先行詞とすることができるのに対し制限節はできないと言われていたのですが、S を先行詞とする制限節が実は存在する、等々です。この種の多くの不思議な言語事実を実例を挙げて示した上でなぜそうなるのかもそれぞれ説明しておきました。

英語の関係節には今回拙著で取り上げなかった問題がほかにいくつもあります。今後はそれらの問題を解決できるように研究を継続していく所存ですので、引き続きご指導をたまわりますようお願い申し上げます、御礼の言葉とさせていただきます。